

消費税と私

乙部町立乙部中学校 三年 伊藤 紗英

「消費税率引き上げかあ。」

二〇一九年十月、消費税率が上がった。

当時小学校五年生だった私はこの引き上げについてあまり気が引かれず、どれだけ大きいことなのか理解できずにいた。

この引き上げがどれだけ大きいことなのかを理解したのが中学になってからだ。百円ショップで二千円分の買い物をしたとき、前は二千百六十円だったのに今は二千二百円もする。

そこで私は、消費税率が引き上げられた理由、その消費税はどんなことに使われているのかを調べた。

まず、消費税率が引き上げられた理由について、国の借金が増え続け、社会保障にかかるお金が足りなくなったからだそうだ。

この社会保障について、わからなかったから調べた。

社会保障とは、国民の「安心」や、生活の「安定」を支えるセーフティネット。「社会保険」、「社会福祉」、「公的扶助」、「保険医療・公衆衛生」からなる。子ども、子育て世代、お年寄りまで、全ての人々の生活を生涯にわたって支えるものだそうだ。

次に、消費税の使い道について、現在の十パーセント分というと国に納める消費税七・八パーセントのうち、国が社会保障に使っているお金が六・二八パーセント、地方交付税が一・五二パーセント、地方消費税二・二パーセントは社会保障の財源となっている。

私は、ほかの人よりもお腹の調子が悪くなりやすく、その分、病院に行く回数も多いが支払いがない日が多く、検査をして支払いがあったとしても少なくて約三百円、多くても約六百円で千円を超えたことがない。それは先程も説明した社会保障の「社会保険」があるお陰だということが分かった。

今回、消費税率の引き上げの理由と消費税の使い道について調べてみて、色々なことを知ることができた。「社会保障とは何なのか。」「消費税があるお陰で安心して病院にかよえていること。」「このことを知って改めて消費税は無いと色々なことにお金がかかってしまうことがわかった。」